



農作業×10

小麦の今後の管理・4つの対策

平成30年産の小麦は、昨年10月の天候不順により、は種作業が遅れたほ場が見受けられました。今後の麦踏みや追肥等の栽培管理が小麦の収量・品質に大きく影響してきます。

必ず次の対策を実施しましょう。

対策1 排水溝と排水口の設置

茎立ち期や登熟期の湿害は、収量に大きく影響を及ぼします。特に出穂前後から登熟期までの湿害は枯れ熟れを促進する大きな要因です。まだ排水用の溝を作っていないほ場では、溝あげロータリー等を使って、ほ場の周囲及びほ場内に5〜10m間隔に溝を掘り、排水口につなぐようにしましょう(図)。

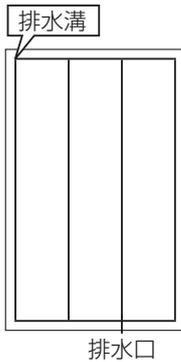


図 排水対策の例 (30aほ場)

対策2 追肥の実施

適正な追肥は小麦子実のたんぱく含量や収量を向上させます。たんぱく含量

量は小麦のランク区分を決める一要因となつています。A〜Dランクの区分があり、直接支払交付金額が異なるため所得にも影響します。熊谷市の平成29年産小麦はAランクとなりました。今年度も適切な追肥により高品質な小麦を生産しましょう。

追肥の方法は、①普通肥料を2回に分けて追肥する方法と、②緩効性肥料を利用し、追肥を1回に省力する方法の2通りがあります。

①2回に分けて追肥する方法
【実施時期】
1回目：3月上旬

表1 2回追肥の施肥量

肥料銘柄例	施用量 (kg/10a)
NK化成C6号	12×2回
硫安	10×2回
高度化成444	14×2回
みのりNK535	14×2回

2回目：3月下旬〜4月上旬

【追肥量】：表1

②1回で追肥する方法

【実施時期】：3月上旬

【追肥量】：表2

表2 1回追肥の施肥量

肥料銘柄例	施用量 (kg/10a)
さとのそら 追肥専用 (石灰窒素 4.5%)	20

対策3 麦踏みの実施

麦踏みは、根張りを良くし、耐倒伏性の向上や凍霜害防止等に効果があります。

麦の2葉期を過ぎたら、茎立ち前(2月下旬)までに、2週間程度の間隔をあけ、最低でも3回行いましょう。

対策4 雑草防除

年が明けて雑草が発生し始めたほ場では、生育期処理剤で雑草防除を行います。ほ場ごとの優占雑草や小麦の生育ステージを早めに確認し、遅れることなく実施しましょう(表3)。

表3 小麦の生育時の除草剤処理

農薬名	使用量 /10a	使用時期	使用回数	適用雑草
アクチノール乳剤	100~200mℓ	穂ばらみ期まで (雑草生育初期)	2回以内	畑地 1年生広葉雑草
エコパートフロアブル	50~100mℓ	小麦節間伸長開始期まで (広葉雑草2~4葉期、ヤエムグラ2~6節期) 但し収穫45日前まで	2回以内	1年生広葉雑草
ハーモニー75DF水和剤	5~10g	は種後~節間伸長前 (但し、スズメノテッポウ5葉期まで)	1回	1年生広葉雑草 スズメノテッポウ
バサグラン液剤	100~200mℓ	生育期 (雑草の3~6葉期) 但し収穫45日前まで	1回	1年生雑草 (イネ科を除く)

【記載農薬は平成29年11月21日現在の登録状況に基づいています。】
※農薬を使用する際には、必ず使用農薬のラベルを確認しましょう。